

地上における信頼の巡礼 ——プラハ大会——



2015年8月9日～16日に開催される「新しい連帯のための集い」を視野に入れながら、わたしは数名のブラザーたちを伴って、南北アメリカを訪問しました。それは、去年と一昨年アジアとアフリカ訪問に続くものでした。さらにわたしたちは、2015年のはじめに、青年たちを訪ね続けるためにオセアニアに赴く予定です。わたしたちは、南北アメリカで青年たちの集会に参加しました。米国とカナダ、それからメキシコとグアテマラ、最後にカリブ海諸国——プエルトリコ、ハイチ、キューバ、ドミニカ共和国——。

南北アメリカの青年に耳を傾けて

北米からは、今まで何人ものネイティブ・アメリカンがテゼを訪れており、彼らはわたしたちにぜひサウスダコタ州のパインリッジ保留地で信頼の巡礼の集会を開催してほしいと要望していました。その後ブラザーたちは、北米の様々な地域で集会を開催しました。2014年、パインリッジのグループが再びテゼを訪問し、これらの交流からネイティブ・アメリカンのラコタ族との関係が深まりました。歴史の流れの中で信頼が損なわれ、裏切られたにも関わらず、どのようにして再び信頼が生まれることがあるのかを知って心うたれました。

中南米では、すでに2007年にボリビアで、2010年にチリで大会が開催されました。そして、40年にわたって、数名のブラザーたちが、北東ブラジルのバイアで暮らしています。中南米諸国の様々な状況を考えると、そこに暮らす青年たちには絶望するだけの理由がたくさんあります。しかし、どこを訪れても、わたしたちは「地の塩」になろうとするキリスト者たちに会ったのです。

メキシコとグアテマラにおいて、「地の塩」であるということは、暴力や麻薬密売のはびこる社会で平和のために働くことを選択するということです。民衆の中の生き活きとした信仰は、これらの地域で、すべての人、特に貧しい人々のそばに神がおられることを力強く証ししています。多くのキリスト者は、教会がさらにますます歓迎の場所となること、一人ひとりに耳を傾ける場所になることを望んでいます。それによって、平和が生まれるだろうと。

キューバでは、多くの青年たちが孤立から抜け出そうとしています。彼らは他国の青年たちとの繋がりを近く感じることを必要としていて、わたしたちが帰る時には青年たちへのよろしくという挨拶を託されました。彼らにとって、地の塩であるということは、希望の火を燃やし続けるという選択です。

ハイチでは、非常に大きな困窮にあるにもかかわらず、神への信頼は、キリスト者を地の塩になるようにと導いています。それは、現実を復活の光のうちに眺めることを可能にします。2010年の悲惨な大地震も彼らの神への信頼を失わせることはできませんでした。

中南米のどこにおいてもわたしたちが見たのは、——プエルトリコでもドミニカ共和国でも何度も体験したことですが——生活の困窮、不正義、ますます広がる貧富の格差、移民の不安定な状況などの現実にもかかわらず、喜びがすべてに勝っているということ。このことが、わたしたちを試すと同時に、わたしたちを鼓舞するのです。貧しい人々の中にさえも、神への信頼によって喜びが生まれています。兄弟姉妹としてともに生きることによって、キリスト者は、「だれもが自分のために生きる」社会ではなく、互いに連帯と責任を担い合う社会を築くことに貢献しています。

ブラザー・アロイス (テゼ共同体 コミュニティー 院長)

fr. Alois

2015年8月16日にわたしたちはブラザー・ロジェの逝去10年目を記念します。
(2015年のプログラムに関しては下記を参照。) テゼからの手紙「新しい連帯に向かって(2012年~2015年)」は、この日に向けて歩み続けるわたしたちに、重要な方向性を示しています。「地の塩」となるために、4つの提言があります。

テゼからの提言 2015年

地の塩として生きる

提言 1 生きることの味わいを
周りの人々と分かち合う

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。」 (マタイ 5:13)

地の塩になるということは、喜びのうちに迎える神からの贈り物です。地の塩となることによって、生きることの味わいを人々に伝え、分かち合うことができます。自分に委ねられた人々の人生を美しくしようとするとき、わたしたちの人生は意味のあるものになります。

多くの障壁に直面して「苦しみ続ける必要があるのだろうか」と自問するとき、塩気をもたらすためには^{わず}かな塩でも十分なのだと思出すのです。

祈りを通して、神がわたしたちをごらんになるまなざしで自分自身を見ることを学びます。神は、わたしたちの中にある神からの贈り物とわたしたちの可能性をごらんになります。

塩気を失わないとは、自分のからだと魂を差し出し、自分の内にある神からの贈り物を信頼することです。

- 自分のために、そして他者のために、探し求めることはできるでしょうか。わたしたちを成長させ、充実へと向かわせるものは何なのか。

提言 2 和解のために
みずからを差し出す

「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と和解し、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」 (マタイ 5:23-24)

わたしたち全員のうちに、ひとつの人間家族として共に暮らせたらというあこがれが宿っています。しかしそれは、家族の中でも、友人との関係においても、都市や町の中でも、そして国家間においても、自然に達成されるものではありません。

キリスト者同士が和解するとき、彼らが、一致を求める人類のただ中でひとつの^{しるし}徴となるのです。

和解が緊急に求められている状況があります。そこにみずからを差し出すとき、恐れのみ先入観のうちに他者を閉じ込めてしまう可能性について理解する必要があります。また他者が自分に対して何か反感を持っている可能性にも気づかねばなりません。

過去から引き継がれてきた憤りを周りの人や次世代の人に受け渡さないようにと、福音は呼びかけています。

- 意見、生活様式、宗教が異なる人、文化や社会背景を同じくしない人、そのような人たちとの出会いを、あえて推し進めることができるでしょうか。互いに知り合い、訪問し合うことへと招くことができるでしょうか。ゆるしを求める勇氣、またゆるす勇氣を見いだすことができるでしょうか。

平和とは、対立が存在しないというだけではありません。それは喜びです。それは本来あるべき場所をすべての人に差し出します。それはいのちの充満です。わたしたちが内側に神の平和を迎え入れるとき、それは、周りの人々やすべての被造物にその平和を広げてゆくのです。

平和を希求するとき、心はさらに多くの人を包み込もうとし、すべての人への深い共感に満たされます。それはもてなしの姿勢や、家族や隣人や日々の活動の中における親切さとなって表れます。

さらに視野を大きくすると、平和は、正義の基盤でもあるのです。贅沢と貧困が隣り合わせる社会において、別の形の暴力が生じていることに気づきませんか。富を分かち合うことによって、対立の緊張が弱まり、それは、公益に寄与するのです。

ある人々は、それぞれの国における公の働き---団体やそれぞれの職場での働き---によって、助けを必要とする人々のために働き、それによって平和を実現させようと努力しています。

- 不安の中に置かれている人々のところに向かうことはできないでしょうか。特に移民に対して心を砕くことはできなでしょうか。不正義の現実によく目を留め、弱い人たちを守ることはできないでしょうか。現代の「奴隷」に目をとめることはできないでしょうか。平和を求め、たとえば毎週日曜日の晩に他の人と一緒に30分だけ沈黙の祈りにとどまることはできないでしょうか。

柔和な人とは、他者にみずからを押し付けない人です。その人は、他者のために場所を作ります。その人はこの大地を独占しません。柔和さはあきらめではありません。それは自分の内にある暴力性と向き合う術すべを知っています。

この大地はわたしたちの所有物ではありません。それは委ねられたものです。それを大切にしようとして招かれたのです。この地球の資源は無限ではありません。個人としても、諸国民としても、未来の世代のために、連帯する責任を担っているのです。

消費と自然資源の使い方においては、本当に必要なこととより多くを所有しようとする欲望の間で、ふさわしい均衡が求められています。

維持が可能な発展をもたらす生活スタイルを見つけるために、あらゆる自分の想像力と創造力を駆使せねばなりません。それは日々の生活で具体的に生かされ、あるいは科学的研究、芸術的ひらめき、社会のための新しいプロジェクトの企画などを推し進める力となります。

- みずからの生活を振り返り、人工的なものや過度なものをシンプルにさせてゆくことはできないでしょうか。生活をシンプルにすることは、喜びの源にもなるのです。人々と分かち合うために、わたしはどのように場所を開くことができるのでしょうか。そこで何を差し出し、何を受け取ることができるのでしょうか。神の創造なさったものに心を向け、神を賛美することを忘れてはなりません。そのためには、休息と静かな祈りの時間が不可欠です。

テゼのウェブサイトでは、これらの提言に関連したみなさんの様々な取り組みを紹介していく予定です。それぞれの地でどのようにみなさんが貢献なさっているのか、以下にお知らせください。

echoes@taize.fr

2015年 テゼにて 新しい連帯に向かって

コミュニティ
テゼ共同体 創立 75 周年

ブラザー・ロジェ 生誕 100 年 (1915年5月12日～2005年8月16日)

2015年5月

+ テゼは、世界の青年たちに、ブラザー・ロジェを思い起こし、キリストに従うようにというブラザーの招きに応じて、それぞれの場所で祈りの集いを開き、連帯を具体的な行動に移すように呼びかけています。

+ 5月10日(日)の午後：
テゼ共同体は、近隣の住民をテゼに招待し、感謝の祈りを捧げます。

2015年夏

毎週、日曜日から日曜日に、青年のための国際的な集いが開催されます。世界の各地から来た人々の話に耳を傾けながら、この3年間の歩みを総括するワークショップも開催されます。

現代における修道召命について考察する一週間

2015年7月5日(日)～12日(日)

修道生活を送る若者(40歳以下の方。修練中の方および誓願後数年の方を含みます。)を対象とした国際的な集いです。

ブラザー・ロジェはよく言いました。「修道生活という大樹」において、「テゼは接ぎ木された一つの新芽に過ぎない」と。この大樹へのブラザー・ロジェの貢献とはどのようなものだったのでしょうか。カトリック、正教、プロテスタントの修道会や修道共同体の代表の方々の助けを得ながら、修道召命が今日どのような意味を持つのかを考えます。

新しい連帯のための青年の集い

2015年8月9日(日)～16日(日)

ブラザー・ロジェの人生に思いを寄せながら、何千もの青年たち(18歳～35歳)が2015年8月9日(日)から16日(日)にテゼに集まります。彼らと共に、ブラザー・ロジェから受け継いだものに心をとめ、「内なるいのちと連帯」に向かう新しい活力を探求します。そして、山上で告げられた福音の息吹——喜び、単純素朴、あわれみ——のうちに、人生のすべてを献げてキリストに従うようみずからを整えます。

この一週間、次のような機会に招かれています。

- 世界中から集まった青年たちと祈る
- 人間同士の普遍的な友情について告げられる神の言葉に耳を傾ける
- 神の愛の中に、人間同士の連帯の源泉を見いだす
- より公平な社会の発展を求めて、今までとは異なる生き方について考える

さらに、以下の人たちとの対話に招かれます。

- 連帯のために活動的に働いている人や国際団体の代表者たち
- 教会の指導者たち
- 他の宗教の信者たち
- アートや創造的なワークショップで出会う異文化に属する青年たち

8月16日(日)の午後： 教会指導者たちも臨席して捧げられるブラザー・ロジェ追悼の感謝の祈り

8月30日(日)～9月6日(日) セミナー：神学的思索へのブラザー・ロジェの貢献

40歳以下の若い神学者のためのセミナー。神学の学生、研究者、またはすでに教会で宣教に携わっている方が対象です。様々な国のプロテスタント、正教会、カトリックの神学者がテゼに集まり、ブラザー・ロジェの神学的思索への貢献について様々な角度から考察します。

申し込みと問い合わせ：
www.taize.fr/2015